

(4) 京ヶ森

ア 調査地区の概要と調査の目的

京ヶ森は、沢田と真野の間にある標高281メートルの低山であり、頂上
がシバ草原となっている。

宮城県版レッドデータブックには、丘陵地帯の半自然草原として2箇所、い
ずれも石巻市内の旭山と籠峰山のシバ高原が取り上げられている。シバ高原や
ススキ草原は、以前は雄勝峠から京ヶ森にかけての尾根筋に広く見られたが、
今では京ヶ森に残るだけである。

京ヶ森では、草原の環境が長く続いたため、これまでに多くの貴重種が確認
されている。特に頂上付近は最近まで草原としてよく管理されていたため、オ
キナグサ、アズマギクが生育するシバ群落やスズサイコやミチノクヤマタバコ
の生える草原が保全されていた。また、林道周辺もハギ類などマメ科の植物や
多くの草原植物が生育する明るい環境で、カイジンドウ（シソ科）、フナバラソ
ウ（ガガイモ科）、カラフトニンジン（セリ科）などの希少種も確認されている。

数年前に舗装された林道が作られたが、草原やその周辺にどのような変化が
あるか現状を把握して、その影響を見ることに重点を置き、

- ・ 頂上の草原の現状の確認
- ・ 林道周辺の植生の観察

を行うことを目的とした。

また、今回の調査は、今後の調査に向けて関心を持つ者を増やす目的で、環
境保全リーダーへの研修会を兼ねて実施した。

※ 参考文献：硯上山・万石浦県立自然公園学術調査報告書
(平成6年 宮城県)



イ 調査結果についての考察

a 頂上のシバ草原の現状

以前と比べると草原の刈り方が変わり、機械を使い、回数や刈る時期も異なっているのではないかと思われた。その影響を見るため、以前にオキナグサ、アズマギクが見られたところと、今もスズサイコの生育しているところの2箇所を調査した。

草原の中に1メートル四方の方形区をつくり、それぞれの方形区の中に見られる全部の植物を調べて書き出し、その植物が方形区の中で占める面積の多い順に記録した。

記録した植物の名称の後の数値は、広がり の程度を示す被度で、4 : 50%以上、3 : 25%以上50%未満、2 : 10%以上25%未満、1 : 1%以上10%未満、+ : 1%未満を示している。

(a) オキナグサ、アズマギクが見られたところ

草原の群落の高さは10センチメートル、方形区内における植物全体の広がり はほぼ100パーセントであった。ヒメヤブランが優占し、帰化植物のヘラオオバコが目立つヒメヤブラン・ヘラオオバコ群落となっており、オキナグサ、アズマギクの生育は確認できなかった。方形区の中に生えている植物は次の13種である。

ヒメヤブラン(4)、ヘラオオバコ(3)、シバ(2)、カワラサイコ(1)、ツリガネニンジン(1)、カワラマツバ(+)、ハイメドハギ(+)、ヒルガオ(+)、センニンソウ(+)、ミミナグサ(+)、カワラナデシコ(+)、タビラコ(+)、ヤマスズメノヒエ(+)

(b) 今もスズサイコの生育しているところ

草原の群落の高さは25センチメートル、方形区内における植物全体の広がり はほぼ80パーセントであった。シバスゲが優占しススキが目立つシバスゲ・ススキ群落となっているが、帰化植物のヘラオオバコとブタナが侵入していることから、本来のシバ草原からススキ草原への遷移の途中の草原群落から人為的なかく乱により後退している群落と見ることができ る。スズサイコは数株生育しているが、草丈は低く、花や果実を付けている株を見ることはできなかった。

シバスゲ(3)、ススキ(2)、カワラマツバ(1)、ヨモギ(1)、カセンソウ(1)、スズサイコ(1)、フジ(1)、チガヤ(+)、ウツボグサ(+)、タチツボスミレ(+)、センニンソウ(+)、アキカラマツ(+)、ツリガネニンジン(+)、ヒメヤブラン(+)、ヤマスズメノヒエ(+)、ヘラオオバコ(+)、ブタナ(+)

京ヶ森の草原は、環境を変えることなく森林への遷移を防いで草原状態を保ってきた半自然群落である。このような半自然群落を成立させてきたのは、長い年月に渡って定期的に実施されてきた刈り取りや野焼きなどの農村の生活文化と一体になった作業技術である。この地域の農村文化がこの地域の自然に働きかけて、多くの貴重種を生育させていた優れた半自然草原を作り上げてきたのである。そういう意味では、農村文化が生んだ歴史的自然でもある。

石巻地方のシバ草原やススキ草原は、麓の農家の生活様式の変化により刈り取りや野焼きなどの作業が行われなくなった結果、遷移が進んで森林となったり、植林されて人工林に変わったりして次第に衰退してきた。京ヶ森の草原は、^{かごぼうやま}籠峰山とともに硯上山万石浦県立自然公園では最後に残されたシバ草原だったのである。

今回の調査結果では、京ヶ森のシバ草原は破壊されていて、現状では半自然草原とはいえない状態にあることを報告しなければならない。半自然草原というよりはゴルフ場、都市公園などの人工草地や、堤防法面、空き地、路傍の雑草群落に近いものになりつつあるという状態である。その原因は、不適切な管理によるものと考えられる。

半自然（二次的自然）は人の働きかけに対応している自然である。草原には草原に対応する働きかけ（作業技術）があり、雑木林には雑木林を成り立たせる働きかけがあるのである。ゴルフ場で使われる技術では、人口草地しか作れないのである。それぞれの自然に対応する作業技術を持っていた麓の人々の知恵を尊重し継承していく必要があるのではないだろうか。

宮城県は平成6年に硯上山・万石浦県立自然公園学術調査報告書を発行しているが、その成果は自然公園内の管理や手入れにどのように生かされているのだろうか。

b 林道建設に伴う周辺の植生の変化について

林道入り口周辺には、セイタカアワダチソウ、アメリカオニアザミが目立った。林道に入ると、林道建設に伴って作られた法面に、これまでこの地方には見られなかった大型の植物2種が大量に生育しているのが確認された。キク科ヨモギ属の植物とマメ科コマツナギ属の植物で高さ2メートルほどの木本植物であり、ともに法面への吹きつけにより侵入した外来植物と思われる。外来植物は、他にイタチハギ、クソニンジン、ベニバナボロギク、ヨウシュヤマゴボウなどが確認された。また、在来種であるが、この地域ではこれまで知られていないヒメヨモギ（キク科）も法面への吹きつけによると思われる状態で確認された。

不明であったキク科ヨモギ属の植物は、調べてみると国内では最近まで長野県^{こもろ}小諸市だけに帰化しているとされていたハイイロヨモギであり、マメ科コマツナギ属の植物は、日本の植物図鑑と帰化植物関係の図鑑等にも記載さ

れていない種であったので、キダチコマツナギ（仮称）として記録した。

林道の建設により、林道の山側の植生はススキ・ハギ群落が後退し、変わって草丈の高い帰化植物群落や帰化植物の侵入がススキ・ハギ群落の中にも増えていることが確認された。

マメ科のイタチササゲ、オオバクサフジなどは、以前と比べると生育数がかなり減っているが確認された。また、開花しているカラフトニンジンも確認された。

林道建設に当たっては、事前に環境アセスメントが行われていたのではないかとと思われるが、今回見られたような結果を招くことは想定されていたのだろうか。吹き付けに使用された材料はどこから持ち込まれたものであるかを把握していたのであろうか。また、林道建設後に影響評価のための調査は予定されているのであろうか。

林道建設が、京ヶ森の自然に大きな影響を与えたことは、今回の短時間の調査でも明らかである。自然公園区域内においては、このような自然破壊を防ぐための調査や管理方法について検討し、是非改善してほしい。

ウ レッドデータブック（RDB）掲載種について

今回の調査で確認できたRDB掲載種は、次のとおりである。

- ・環境省絶滅危惧Ⅱ類 スズサイコ
- ・宮城県絶滅危惧Ⅱ類 スズサイコ
- ・宮城県要注目種 カラフトニンジン、カワラサイコ

エ 調査地で確認した植物等の状況

a 頂上

・京ヶ森頂上風景



・ヘラオオバコ



・ ツリガネニンジン



・ オオトビサシガメ



・ 調査風景



・ ニホンシカらしい糞



b 林道沿い

・ ヤクシソウ



・ カラフトニンジン



・ナンブアザミ



・ナギナタコウジュ



・センブリ



・ツルリンドウ



・キダチコマツナギ (仮称)



・調査風景



オ 今回の調査で確認した植物一覧

a 頂上

科名	種名	花・実	備考
アカネ科	カワラマツバ		
イグサ科	ヤマスズメノヒエ		
イネ科	シバ		
	ススキ		
	チガヤ		
オオバコ科	ヘラオオバコ		帰化
ガガイモ科	スズサイコ		
カヤツリグサ科	シバスケ		
キキョウ科	ツリガネニンジン	花	
キク科	カセンソウ		
	ブタナ		帰化
	ヨモギ		
キンポウゲ科	アキカラマツ		
	センニンソウ		
シソ科	ウツボグサ		
スミレ科	タチツボスミレ		
ナデシコ科	カワラナデシコ		
	ミミナグサ		
バラ科	カワラサイコ		
ヒルガオ科	ヒルガオ		
マメ科	ハイメドハギ		
	フジ		
ムラサキ科	タビラコ		
ユリ科	ヒメヤブラン		

b 林道沿い

科名	種名	花・実	備考
アカネ科	ヤイトバナ(ヘクソカズラ)	実	
アカバナ科	メマツヨイグサ	花	帰化
イネ科	オオアブラスキ	花	
	ススキ	花	
ウルシ科	ツタウルシ		
	ヌルデ		
	ハゼノキ		
オトギリソウ科	トモエソウ	実	
オミナエシ科	オトコエシ	花	
カバノキ科	イヌシデ		
キク科	アキノキリンソウ		
	アキノノゲシ	花	
	アメリカオニアザミ	花	帰化
	オオアレチノギク		帰化
	オトコヨモギ		
	キッコウハグマ	花	
	クソニンジン		帰化
	シロヨメナ	花	
	セイタカアワダチソウ	花	帰化
	センボンヤリ	実	
	タマブキ		
	ナンブアザミ		
	ノコンギク	花	

キク科	ノハラアザミ	花	
	ハイイロヨモギ		帰化
	ヒメヨモギ		
	ベニバナボロギク	花	帰化
	ヤクシソウ	花	
	ヤブタバコ		
	ヨモギ		
クスノキ科	シロダモ		
クマツツラ科	クサギ	実	
ケシ科	タケニグサ		
ケシ科	ムラサキケマン		
コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ		
サクラソウ科	オカトラノオ		
シソ科	ナギナタコウジュ	花	
シソ科	ヤマハッカ		
スイカズラ科	タニウツギ		
セリ科	カラフトニンジン	花	
タケ科	アズマネザサ		
バラ科	エドヒガン		
	クマイチゴ		
	ダイコンソウ		
ブドウ科	ノブドウ	実	
ブナ科	クヌギ	実	
マツ科	モミ		
マメ科	イタチササゲ	実	
	イタチハギ	実	帰化
	オオバクサフジ		
	キダチコマツナギ(仮称)	花	コマツナギに似た外来種と思われる。高さが2mくらいまでなる。
	クズ		
	ネムノキ		
	マルバハギ		
	メドハギ		
ヤマハギ			
ミズキ科	ミズキ		
ムラサキ科	オニルリソウ		
モクセイ科	マルバアオダモ		
ヤナギ科	カワヤナギ		
	ハッコヤナギ		
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	実	帰化
リンドウ科	センブリ	花	
	ツルリンドウ	実	

參考資料

石巻市域における宮城県レッドデータブック掲載植物群落一覧

ランク 1：要注意 2：破壊危惧 3：壊滅危惧 4：壊滅状態 5：壊滅

備考 特：特定植物群落 国：国定公園 県：県立自然公園

植生帯	群系名	名 称	ランク	備 考
海岸地帯 (11/27)	暖温帯樹林(8/14)	弁天島のタブノキ群落	3	特・国
		田代島のタブノキ群落	2	特・国
		網地島のタブノキ群落	2	特・国
		岸山王島のタブノキ群落	2	国
		桂島のタブノキ群落	1	特・県
		小出島のタブノキ群落	1	国
		貢尻島のタブノキ群落	1	特・国
	海岸樹林(3/11)	沖山王島のモチノキ群落	1	特・国
		清崎のアカマツ群落	4	特・国
		神割崎のクロマツ群落	2	特・国
平野地帯 (1/2)	川辺植物群落(1/1)	追波川のヨシ群落	1	特
丘陵地帯 (6/47)	中間温帯樹林(4/36)	牧山のモミ・イヌブナ群落	1	特（植物群落保護林）
		牧の崎のモミ・スギ群落	1	特・国（材木遺伝資源保存林）
		駒ヶ峰のモミ群落	1	特・国（材木遺伝資源保存林）
		尾崎神社のイヌシデ群落	2	県
	半自然草原(2/2)	旭山のシバ群落	3	県
籠峰山のシバ群落		3	県	
山地帯 (1/27)	冷温帯樹林(1/24)	牧山のブナ群落	2	特・県
群落複合 (4/51)	池沼植物群落(1/18)	富士沼の池沼植物群落	1	
	砂浜植生(1/4)	長面浜の砂浜植物群落	4	特・国
	島嶼植生(2/5)	金華山の植物群落	3	特・国
		八景島の植物群落	1	特・国（国天然記念物）

※ 「荒島のタブノキ群落」については、宮城県レッドデータブックにおいて2001年3月発行の本編では雄勝町（現石巻市）と記載されていたが、2002年3月発行の普及版では志津川町（現南三陸町）と訂正されている。